



前期S級の小原唯志の機動力が中心!

前期S級の選手が中心となるが、戦歴が一番良かったのは小原唯志。スケート繋がりで師匠が、あの武田豊樹だし、競輪の本質も分かっている。時たま、変幻自在の動きもやっているが、基本は、タテ攻撃が中心の自力選手。連係するのは同県同期の小林申太。小林自身も動けるので前後は流動的だが、格的にも小原の前回りが自然。地元、田村真広もA級では負けられないところ。小林は予選回りで、特選、準決と小原とセットになりそう。年齢的に難しい時期になってきたが、ここが正念場だろう。他に地元からは矢内良和と瀧野勝太の名前がある。

北日本は佐々木省司が巧者ぶりを発揮。昨年は長年の蓄積疲労からあまり良くなかったが、A級に落ちて一から出直し。森田康嗣、緑川修平が目標で厳しい戦いになるが、俊敏なコース取りでカバーしたい。

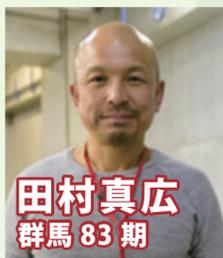
南関はダイナミックな加賀山淳に巴直也の連係策。加賀山は夏場を苦手にしているが、この時期は得意。持ち味のカマン先行で後続を千切りたい。遠征勢は中四国勢が強烈。橋本凌汰に立花成泰の岡山タッグも本線にとっては嫌な相手。成績の波が激しい久樹克門だが、徳島の強い選手達と日々、一緒にトレーニングを積んでいる。

ヤンググランプリの覇者、野口大誠も復活の1年になりたい。この地位に甘んじているが、元々のポテンシャルは高い。

A級 レース展望



小原唯志  
茨城 101期



田村真広  
群馬 83期



加賀山淳  
千葉 94期



立花成泰  
岡山 82期

ぶれない徹底先行の奥井迪!

年末のガールズケイリンには出場できなかった奥井迪だが、全選手の憧れと言っても過言ではない。デビュー時から一貫して徹底先行を貫くスタイル。この戦法では、大きなところを獲れないと悩んだ時期もあったが、ぶれないのも奥井先生の魅力。軽いドームバンクも苦手意識はなく、シンプルにジャンから駆けて押し切るだろう。

次の評価が太田美穂。昨年は体調を崩した時期もあり、成績的にも本人にとっては不本意な1年。長い距離を踏むイメージもあったが、近況は捲りが武器になってきている。奥井に付き合わず、自分のレースをやり、勝ちに拘るだろう。常にガールズ選手達の輪の中心にいて、笑顔が絶えない。

吉村早耶香は自在選手だが、逃げの決まり手も多くなっている。レース巧者だし自然と前々の位置を確保。先行の番手の確率も高く、ここから狙う手もある。

中村由香里は一期生の功労者。ガールズケイリン全体のレベルが上がりに、スピードレースになっっているが、常に3着以内を目指している。位置取りは確かだし、奥井マークが理想だろう。

地元からは萩原瑞生が走り、確定板に載るのが目標だ。自力はないので、最終バックで3番手、4番手は確保したい。

ガールズ レース展望



太田美穂  
三重 112期



吉村早耶香  
静岡 112期



中村由香里  
東京 102期



萩原瑞生  
群馬 122期

■ 出場予定選手 (A級) ※2023年12月17日現在のデータです。

地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	
北日本	森田 康嗣	89	北海	佐々木 省司	86	青森	高橋 秀吉	88	秋田	緑川 修平	95	福島	松澤 敬輔	97	北海	
関東	小原 唯志	101	茨城	小林 申太	101	茨城	田村 真広	83	群馬	西村 行貴	92	東京	松田 優一	90	茨城	
A1	南関東	加賀山 淳	94	千葉	齋藤 宗徳	100	千葉	巴直也	101	神奈	大竹 哲也	93	静岡	中山 拓人	121	埼玉
中国	立花 成泰	82	岡山	橋本 凌汰	119	岡山	藤井 将	113	広島	原岡 泰志郎	100	千葉	水本 博行	78	岡山	
四国	久樹 克門	113	徳島	藤原 浩	87	高知	坂田 章	93	高知	中国 中野 光太郎	121	徳島	中野 光太郎	121	徳島	
九州	高比良 豪	84	福岡	野口 大誠	105	熊本	緒方 慎太郎	115	熊本	松丸 裕紀	86	福岡	原井 剣也	119	福岡	
	茅野 寛史	99	鹿児島													

■ 出場予定選手 (ガールズ) ※2023年12月17日現在のデータです。

地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	
北日本	佐藤 友香	110	青森	高木 香帆	120	岩手							
関東	萩原 瑞生	122	群馬	中村 由香里	102	東京	奥井 迪	106	東京	鈴木 彩夏	110	東京	
A1	南関東	佐藤 亜貴子	108	神奈	中村 美那	118	神奈	保立 沙織	118	神奈	吉村 早耶香	112	静岡
中国	高橋 美沙紀	124	愛知	太田 美穂	112	三重	近澤 諒香	118	三重				
近畿	中瀬 由真	124	大阪										

セブン-イレブン FamilyMart LAWSON ミニストップ Daily 777 SevenMart

競輪専門紙・出走表が  
**コンビニのマルチコピー機から**  
 24時間365日出力可能!!

eプリントサービス  
 Powered by SHINBUN  
 03-5830-1808  
 www.e-printservice.net

「自分が理想としているレースはライン3人で決められるような走りです。もしも自分が1着を獲れなくても、自分もしっかりと残り、ラインの誰かが1着というレース。任された以上はラインに貢献したいと思っています。」

ダービーの準決勝は前受けから「全ツッパ」の組み立て。まずは三谷竜生さんが押さえに来て、その後は眞杉匠君も来たが併せ切ることができました。結果は慎太郎さんが1着でしたし、仕事もしてもらった。そして3番手の和田圭さんも3着だったので、自分の求めている理想とする走りができたように思います。(ここまで)自分が一番意識していたのは脇本雄太さん。でも同型の犬伏湧也君のダッシュも素晴らしいと思います。え? 北井佑季さんも突っ張り得意? それは僕が北井さんの真似をしているからです(大笑)

「会心の一撃、23」新山響平に聞く、今年の1本  
 「ライン3人で決めるための”全ツッパ”」

最先端の先行スタイルで魅了するスピードスター

初出場の「KEIRINグランプリ2022」から2年連続出場となる新山響平。今年もグレードレースの優勝こそないものの、賞金ランキング9位でグランプリの切符を手にした。今年、競輪解説者や競輪記者たちは「2周を逃げ切る時代」、「タイムでねじ伏せる時代」と新しい時代のレーススタイルを表現した。

長い距離を踏める先行選手が躍動した2023年。類まれなるスピードを持ち、ペース配分の正確性も高い新山響平はその中心的存在であり、S級S班1年目も臆することなく、大きいレースでファンを魅了した。徹底先行というスタイルを確立した今、来年以降もそのレベルを引き上げ続けていくだろう。輪界屈指の先行力を武器に、昨年のリベンジを果たすべく奮闘する姿をファンは心待ちにしている。

平塚G1・日本選手権競輪準決勝 「ラインで決める理想のレース」

そんな新山響平に「今年の1本」を尋ねると、5月の平塚G1「日本選手権競輪準決勝(開催5日目・9R)」との回答。

新山響平コメント

77th JAPAN CHAMPIONSHIP KEIRIN

兵藤一也を想う

「日本選手権競輪(GI)」「高松宮記念杯競輪(GI)」ほか特別競輪は出走・決勝入りともに多数。05年10月「共同通信社杯(GII)」優勝。08年と11年はS級S班に在籍した(当時S班は全18名)。17年11月に宇都宮競輪場で300勝達成。

20年10月の防府競輪「スポニチ金杯争奪戦(F1)」を最後に出走がなく、同開催2日目・10月10日のS級選抜(落車棄権)がラストランとなった。

兵藤は1999年4月に宇都宮競輪場でデビューし、デビュー戦で完全優勝。翌年8月に小松島競輪場でS級戦初勝利、2001年7月に初優勝。続く12月にヤンググランプリ出場。

「日本選手権競輪(GI)」「高松宮記念杯競輪(GI)」ほか特別競輪は出走・決勝入りともに多数。05年10月「共同通信社杯(GII)」優勝。08年と11年はS級S班に在籍した(当時S班は全18名)。17年11月に宇都宮競輪場で300勝達成。

20年10月の防府競輪「スポニチ金杯争奪戦(F1)」を最後に出走がなく、同開催2日目・10月10日のS級選抜(落車棄権)がラストランとなった。

プライドが高いと言うより、鼻っ柱の強く個性的な選手だった。亡き、手島慶介さんと同じ時代に生き、2人でグランプリに乗った事は、昨日の様に思い出す。2世レーサーだったが、デビュー直後から、メーカーとして売り出した。まだまだ、走る姿を見たかったが、怪我には勝てなかった様だ。

多分、引退セレモニーとか派手な事は本人が嫌うだろう。そつと、去るのも、兵藤一也らしくていい。選手としては大成の人生だったし、お疲れ様でした!